

68th Annual Congress of the Japan Society of
Obstetrics and Gynecology



第68回日本産科婦人科学会学術講演会 ランチョンセミナー12

産婦人科医に知っておいて欲しい 新生児管理 — 新生児蘇生法を中心に —

日時

2016年 **4月22日** (金) 12:00~13:00

会場

東京国際フォーラム ガラス棟4F
G402 (第10会場)

〒100-0005 東京都千代田区丸の内3丁目5-1 TEL:03-5221-9000

座長

茨 聡 先生

鹿児島市立病院総合周産期母子医療センター

演者

細野 茂春 先生

日本大学医学部小児科学系小児科学分野



● 本セミナーは受講後、受講証明シールが受け取れる**NCPR2015アップデート公認講習会**です。

ランチョンセミナーは
チケット制です。

配布場所

東京国際フォーラム 地下1F ロビー

配布時間

4月22日(金) 7:30~11:50

※おひとり1日1枚、当日開催分のみ配布、なくなり次第終了いたします。また、セミナー開始5分で無効となります。

産婦人科医に知っておいて欲しい 新生児管理 — 新生児蘇生法を中心に —

細野 茂春 先生

日本大学医学部小児科学系小児科学分野

2015年10月に国際蘇生連絡協議会からConsensus2015が発表された。周産期・新生児医学会 新生児蘇生法委員会ではNCPRガイドライン2015作成準備委員会を立ち上げて我が国の実態に即した“新生児蘇生法ガイドライン2015”を発表し2016年4月の講習会事業に反映させるためテキスト、講習会用スライド等の改訂を行った。今回の改訂のコンセプトは“蘇生に立ち会う医療従事者が誰であっても遅延なき有効な人工呼吸が実践できる。”であり、アルゴリズムでの評価と介入についての大きな変更はなかった。

以下に特筆すべき変更点について記す。

- ・分娩室内での児の体温管理の重要性が強調された。具体的には中心体温が36.5～37.5℃が推奨され、新生児室またはNICUや新生児室入室時に体温を記録することが推奨された。
- ・評価では心拍がkeyとなる因子であるため迅速かつ正確な心拍評価のために心電図モニターの活用が提案された。
- ・その他、早産児では我が国では在胎28週以下の児では臍帯ミルキングによる胎盤血輸血の実施を推奨し、早産児の呼吸障害に対するCPAPの活用、人工呼吸の際にはPEEPの使用と21～30%の酸素濃度から人工呼吸を行うことが推奨となった。新生児仮死後の低酸素性虚血性脳症に対する低体温療法の適応には変更はない。以上が今回の改訂のポイントである。

地域の医療資源の状況によってはlate preterm児が産科施設で管理される場合も考えられる。

神経学的後障害として重要でかつ予防が可能な血糖、黄疸管理および先天代謝異常症検査の落とし穴、退院後に最も問題となる感染症で重症化予防が可能であるRSウイルス感染症に対するパリーブマブ投与などについての新生児管理も解説する。